第 515 回岡山地方最低賃金審議会議事録

- 1 日 時 令和 7 年 8 月 6 日（水曜日）午後 3 時 00 分～
- 2 場 所 岡山市北区下石井 1 - 4 - 1
岡山第 2 合同庁舎 2 階共用会議室 A
- 3 出席者
公益代表委員	岡 山 一 郎
片 山 裕 之
佐々木 裕 子
西 田 和 弘
長谷川 珠 子
労働者代表委員	日下部 雅 淑
小 橋 政 次
高 山 伸 男
西 崎 知 佳
村 上 達 哉
使用者代表委員	石 黒 和 之
佐 野 嘉 郎
鶴 海 元
錦 織 勝 輝
西 谷 治 朗
事務局 岡山労働局長	森 實 久美子
労働基準部長	政 木 隆 一
賃 金 室 長	黒 田 和 美
賃 金 指 導 官	中 本 弘 一
監 察 監 督 官	諏 訪 雅 浩
労 災 補 償 監 察 官	木 村 弘 之

4 議 事

中本指導官 ただ今から第 515 回岡山地方最低賃金審議会を開催いたします。本日は公開にて行います。
まず、定足数についてご報告申し上げます。
本日は、委員 15 名全員が出席されておりますので、最低賃金審議会令で規定されている定足数である 2/3 以上又は公労使各委員の 1/3 以上の出席の条件を満たしていることをご報告いたします。
それでは、本日ご審議いただく事項につきましてご説明します。

- 1 地域別最低賃金額改定の目安の伝達について
- 2 委員からの追加要望資料の説明について
- 3 今後の審議日程について
- 4 その他

でございます。
それでは会長、よろしく申し上げます。

西田会長 皆様、お暑い中ご苦勞様でございます。
目安については、すでに情報を入手されておられることかと思
います。後ほど詳しい説明があろうかと思いますが、本日の審議
会は、公労使の三者が揃い公開としています。ただし、議事の進
行において二者協議となる場合があれば、その部分は、委員の皆
さんの忌憚のないご意見をいただく必要があると考えますので非
公開とします。
それでは、議題（1）「地域別最低賃金額改定の目安の伝達につ
いて」から審議に入ります。令和 7 年度の目安について、事務局
から伝達をお願いします。

黒田室長 目安答申にかかる伝達に先立ちまして、中央最低賃金審議会藤
村会長からビデオメッセージが届いております。画像はございま
せんが視聴いただきたいと思います。

（中央最低賃金審議会藤村会長メッセージ放送）

なお、放送途中、放送設備に不具合が生じたことから、事務局
において会長メッセージを代読、審議会への伝達とした。

黒田室長 ご清聴ありがとうございました。
機器の不具合があり、藤村会長の生の声とならず大変申し訳あ
りませんでした。内容につきましては代読しましたとおりです。
それでは、引き続き労働基準部長より、本日の資料No.1、また、

第 514 回審議会でお配りしました資料No.2「賃金改定状況調査結果」と合わせまして、説明させていただきます。

政木部長

それでは、資料 1 の「令和 7 年度地域別最低賃金額改定の日安」につきましてご説明いたします。先ほどの会長のメッセージの内容と重複する部分がありますが、資料のデータも参照しながら、もう少し詳細に説明したいと思います。

それでは資料No. 1、目安答申についてご説明いたします。

目安答申の 1 は、令和 7 年度の目安についてはその金額に関し意見の一致に至らなかったとあります。

2 は、目安に関する公益見解等を地方審議会に提示するものとあります。

3 は、地方審議会においては、公益見解を十分参酌して自主性を発揮されたいとされています。

4 以降は、中小企業・小規模事業者が、継続的に賃上げ出来る環境整備のため、生産性向上や価格転嫁対策等について、政府に支援を要望するという内容となっております。

次に公益委員見解について説明します。資料は別紙 1 をご覧ください。

まず、1 の目安金額についてです。ランク A、B は 63 円、ランク C は 64 円となっております。

続きまして、目安審議に当たって 3 要素の各項目についてどのような審議があったのかについて、参考資料を用いながら説明いたします。

アの「労働者の生計費」について、別紙の参考資料 2 ページの消費者物価指数の対前年上昇率の表をご覧ください。「持ち家帰属家賃を除く総合」については、2024 年 10 月から今年 6 月までの対前年同期上昇率の平均は 3.9%となっており、昨年の調査から引き続き、高い水準で推移している状況となっております。

また、最低賃金に近い賃金水準の労働者の購買力を維持する観点から、昨年の審議に用いました年間 15 回以上の購入頻度である「頻繁に購入する品目」の指標につきましては、平均で 4.2%の上昇率となっており、昨年の 5.4%から低下しているものの引き続き高い水準となっている状況です。

ここで、参考資料 4 ページをご覧ください。4 ページは消費者物価指数における項目別の寄与度を表しており、これをみますと、食料品やエネルギーに関する項目において寄与度が高い状況が見られます。さらに、参考資料 5 ページのエンゲル係数の推移を見ますと、年々増加傾向であり、直近では勤労者世帯で 26.5%となっております。また、所得の低いグループを表した世帯収入第一・十分位につ

いては27.5%とさらに高い状況にあります。エンゲル係数の上昇は、最低賃金に近い賃金水準で働く労働者の家計に直接的な影響を与え、実質的な購買力を押し下げる要因と考えられます。

そこで、食料品やエネルギーの品目をより多く含む指標も考慮する必要があることから、昨年度の審議で用いた参考資料3ページ左表にある「頻繁に購入する品目」に加えて、3ページ右表の食料やエネルギーなどより多くの品目を含んだ「1か月に1回程度購入する品目」も参考にすることとしています。また、この3ページの表のなかには含まれていない穀物類についても考慮することから、食料全般を示す「食料」や、食料・エネルギーを含んだ「基礎的物価指数」という新たに3つのカテゴリーも加えて、総合的に物価上昇について判断することとしています。

参考資料の2ページに戻っていただきますと、消費者物価指数を4つのカテゴリーに分類した表があります。

まず、最低賃金に近い賃金水準の労働者に密接に関連する「食料」についてみますと、2024年10月から今年6月までの対前年同期上昇率の平均は6.4%と前年同期の5.5%に続き高い水準となっています。

次に、食料、家賃、光熱費などの「基礎的支出項目」については、5%と前年同期の2.9%よりも上昇しており、最後に「1か月に1回程度購入する」品目については、6.7%と前年同期の1.1%よりも大幅に上昇している状況がみられます。

最低賃金の引き上げにより、賃金上昇分の多くを消費に回している調査結果を鑑みると、これらの消費者物価指数の上昇は、最低賃金近傍の労働者においては、生活が苦しくなっていると考えられるため、今年度は労働者の生計費について、生活必需品を含む消費者物価の上昇も勘案する必要があるとしています。

次に、イの「賃金」についてです。参考資料の7ページをご覧ください。

連合集計による春季賃上げ妥結状況における賃上げ率の推移についてですが、これによりますと、全体で5.25%と33年ぶり5%台であった昨年を上回っている状況です。中小企業においても4.65%と、昨年を上回る高い水準となっています。

また、8ページの有期・短時間・契約社員に係る引き上げ率についても、昨年度を上回る5.81%となっています。

9ページの経団連による結果におきましても、大手企業5.38%、中小企業では4.35%と、いずれも高い水準となっています。

また、参考資料11ページにある常用労働者30人未満の企業を対象とした厚労省調査である「賃金改定状況調査結果」についてですが、合計で2.5%の賃金上昇率であり、これは平成14年以降最大値

となっています。また、11 ページ右表の令和6年と7年の両方に在籍していた継続労働者に限定した賃金上昇率についても、全体で3.2%と昨年を上回っております。

以上の通り、企業規模によって開きはあるものの、規模に関わらず昨年を上回る賃金の引上げの状況がみられるところです。

次にウの「通常の事業の賃金支払能力」についてです。参考資料14 ページ以降になります。

14 ページの2023年度の法人企業統計における経常利益は、資本金1,000万円以上で11.3%、1,000万円未満で28.8%の増加となっています。また、15 ページの売上高経常利益率についてみると、資本金1,000万円以上では直近で6%から10%程度で推移しているなど、安定して改善の傾向がみられます。

16 ページの従業員一人当たりの付加価値額の推移についてみますと、2023年度は全体で4.7%増と直近3年で改善傾向にあり、資本金1,000万円未満の製造業では7.2%増、非製造業でも4.8%増と、こちらも引き続き改善傾向にあります。

次に20 ページをご覧ください。価格交渉の状況についてです。昨年の9月と今年の3月の状況についてみますと、価格交渉できた割合は、86.4%から89.2%と約3ポイント増加しております。一方で、交渉できていない割合は13.6%から10.8%と減少しています。しかし、受注企業の意に反して交渉が行われなかった社が依然1割程度ある状況となっています。

また、21 ページの労務費に係る価格交渉の状況についてですが、価格交渉が行われた企業のうち、労務費の価格交渉が行われた企業は7割超と増加傾向にあります。次の22 ページは、コスト全般の価格転嫁の状況ですが、一部でも価格転嫁できた割合は79.9%から83.1%と増加しています。

最後に24 ページの倒産件数についてですが、直近3年間で増加傾向にあるものの、25 ページの物価高倒産件数は、2025年上半期は449件と前年同期の484件を下回る状況になっております。

以上が3要素についての説明となります。

公益見解ではこれらの3要素について、先ほどの会長メッセージでも述べられたとおり、消費者物価指数が上昇していることから、労働者の生計費を重視することに加え、中小企業を含めた賃上げの流れが続いていることに着目し、これらを総合的に判断したところ、全国加重平均で6%である63円を基準とすることが適当であるとされました。

ランク別では、消費者物価指数はCランクの方が上昇率が高いということを考慮し、A、Bランクは63円、Cランクは64円という結論に至っています。

以上が公益見解についての説明となります。

次に、別紙2の小委員会報告における労使の見解について、ご説明いたします。

労使の見解につきましては、書かれている内容全て重要であり本来であれば全て読み上げたいところですが、時間の関係上、要点を絞って説明させていただきます。

まず、2の労働者側見解についてです。

1段落目、今年の春闘では昨年をさらに上回る成果が報告されたが、労働組合のない職場で働く労働者に対しても最低賃金の大幅な引き上げを通じ、これを波及させる必要がある。

3段落目、今年の一つの通過点として、全都道府県で1,000円超の実現は必須であること。また、中期的には一般労働者の賃金中央値6割を目標に継続的に水準を引き上げる必要があることから、本年は昨年以上の大幅な改定に向けた目安を提示すべきである。

4段落目、「頻繁に購入」する品目の消費者物価指数には、この間高騰してきた「コメ」が含まれていないため、最低賃金近傍で働く者の生活は昨年以上に苦しく、生活実感をいかにデータから汲み取るのかという観点は今年も重要である。

5段落目、地域間額差について昨年はB・Cランクを中心に目安を大幅に超える引上げが相次ぎ、地域の自主性がこれまで以上に発揮されたが、一方で地方審議における目安の意義が問われかねない事態であることから、昨年の実績も念頭に置いた中賃としてのメッセージを示すべき。

6段落目、企業の倒産件数は、中長期的に見れば低い水準であり、統計上の雇用情勢は堅調である。最低賃金の引上げと雇用維持は相反しておらず、雇用情勢への影響は極めて限定的である。

7段落目、企業の経常利益は実績ベースでみて堅調に推移しており、中小企業の労働分配率の水準は高いものの、近年は低下傾向にあり、総じて賃金支払い能力に問題はない。より広範な支払い能力の改善・底上げが必要であり、政府の各種支援策の制度拡充・利活用の推進を求める。

以上を踏まえ、本年度は誰もが時給1,000円以上への到達と、生活できる賃金水準の実現に向けてこれまで以上に前進する目安が必要であり、あわせて地域間額差の是正につながる目安を示すべきである。

労働者側委員としては、公益委員見解について主張が十分反映されておらず、不満の意を表明した。

続きまして、3の使用者側見解についてです。

1段落目、最低賃金引き上げの必要性は十分認識しているなか、

- 黒田室長 それでは本日の資料No.2としてお示ししています令和6年度業務改善助成金につきまして、私から説明いたします。
- 前回第514回審議会の際、使用者側委員より要望のありました業務改善助成金の申請件数の内訳についてです。
- 岡山労働局の令和6年度申請件数について、事業場規模別の数値とグラフを作成しております。産業別とコース別も参考までに記載しております。以上です。
- 西田会長 今回の資料説明につきまして、質疑等ございますでしょうか。
- 使側委員からのお尋ねということでしたが、よろしいでしょうか。
- 鶴海委員 はい。
- 西田会長 議題（3）の「今後の審議日程について」、事務局から説明してください。
- 黒田室長 次回、第516回岡山地方最低賃金審議会につきましては、岡山県最低賃金専門部会の審議結果が全会一致とならなかった場合に開催することとなります。このため次回の本審の開催日については、今後の専門部会の審議の状況を踏まえ開催の有無について判断することになります。
- 現状では、開催することとなった場合は、8月19日（火）もしくは8月20日（水）を想定してはおりますが、今後の審議状況により日程変更が必要な場合もありますので、その際には委員の皆様と調整の上、ご連絡させていただきます。
- 西田会長 委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。
- それでは、議題（4）の「その他」について、事務局から何かありますか。
- 黒田室長 岡山県労働組合会議及びパート・臨時労組連絡会から、第514回審議会でも回覧とさせていただきました署名が追加で提出されております。最低賃金の引上げを求める要請署名の提出が本日ありましたので、回覧させていただきます。
- 西田会長 回覧は時間がかかるとおられますので、終了後にも全員回覧するというように進行させていただきます。
- 委員の皆様から他に何かありますかでしょうか。

西田会長

よろしいでしょうか。

それでは、これで第 515 回岡山地方最低賃金審議会を終わります。

お疲れ様でございました。